

新型車載端末を発表

光英システム 全メーカーに搭載OK

【沼尻尚子】光英システム株式会社(葦津嘉雄社長、東京都新宿区)は、二十一日、毎秒の燃料使用量をはじめ、車輪の速度から急ブレーキ・急発進まで読み取る新型車載端末「K250」の発表会を開いた。

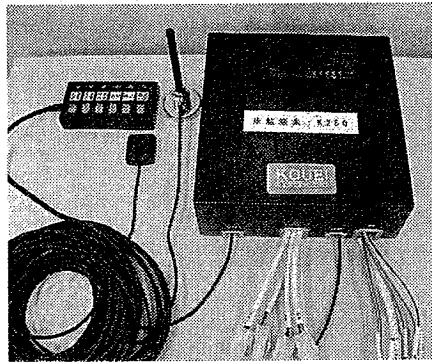
一般道の実走行テストについて、葦津社長は「CAN-BUS仕様と従来のデジタコとで結果に誤差はなく、信頼度は高い。一般的に、十トトラックは一以て三キしか走行できないと言われているが、端末を利用して管理した結果、七キ走るこ

S」の技術を活用したもので、全メーカーのトラックに搭載可能。また、ドライバーに事故防止警報と説明した。

装着方法は各車両に二本の端子をつなぐだけで、工事費などの導入コストはかからない。

併せて、統合輸配送管理システムも紹介。運行状況などを車載端末から自動的に送信し、FOMA通信網を使ってインターネットに接続する。

会社のパソコンだけでなく、携帯電話でも受信可能だ。同装置の導入により①輸配送実態の見え方や②安全管理・指導③輸配送サービ



スレベルの向上④収支改善などが可能と予定。

装着方法は車両に2本の端子をつなぐだけ

↑

る。

K250の本体価格は十五万円(税別)モニターングシステムは百五十万円